

# あ・も・し・る・入・立 めだかの学校だより

平成10年2月1日

第19号

学舎:いなさ自然休養村

〈つみくさ〉

引佐郡引佐町奥山

1737-286

TEL053-543-0321

## 校長訓話

第十九回校長 古橋利雄

昨年の1月に半僧坊で行われたフォーラム・イン・引佐でメダカの学校の皆さんの活躍を知り翌2月の特別教室から入学を許可されました。

学校の歴史は知りませんが入学して1年程度で大抜擢と言うべきか、校長に迄口ケット出世するとは思っていませんでした。「当校の理事は余程のアバウトな方々揃いなのか、それとも皆さん何か大切な部分が欠落しているのか、いやそんな筈はない、ヒヨツとしたら勇退の花道を与えてやるからトットとやめていけと暗にほめかしているのか?それにしても、まだ、俺の素性はバレていない筈なのに」等といずれにしても良いように解釈できないまま3月の授業を迎える事になるのです。

校長を指名される程強烈な驚きではありませんでしたが、前回の12月授業の給食当番を任命されました。何時かは当番が回って来るだろうけれど、なるべく避けたいと願い、目立たないよ



うに心掛けていた申妻もありませんでした。内心「困ったな」と思いながらも逃げる妥当な言い訳が発見できず、事前の献立ミーティングに参加しました。

活発な女性たちがバリバリ意見を出し合いメニューから材料調達まで要領よく決めていったのですが、私はその料理のイメージすら出来ない為、意見も出せず一人だけ浮き上がっているような情けない気持ちでした。

当日は予めチーフと代表の方々が買い出しをして、給食時間の約5時間前に集合、仕込みを始めるとのことでした。私は「皆さんの間でウロウロして迷惑がられ、それをヒシヒシと感じる苦痛の5時間になるだろうが、これも精神修養か」と覚悟をして行きました。

最初は女性達から冷たい視線を浴びているような気がしていましたが、その視線の主たちから、そんなことを気にしている間がないほど矢継ぎ早に顎で使われ、目で命令されて、汗をにじませて動き回っているうちに何となく仕事のプロセスが読めるようになり、自分の役割も判断できるようになりました。私にはニコリともしなかつた女性達が、その頃から私も同じチームのスタッフと認めてくれるようになったようで、視線も穏やかに交わるどころか、冗談さえ交わしてもらえる様になりました。

持て余すと思っていた時間は、むしろ足りない位でしたが、チーフと優秀な女性スタッフにより時間配分も計算され尽くしており、それぞれが心を一つにして素晴らしい仕事をしたからこそ、あんなに見事な料理の数々を、それも出来立ての熱々を皆様に堪能していただくことができました。

料理を全て完成させた時は気丈なメイ NSTAFFも流石に疲れきったようでしたが、全員達成感と充実感に満ちて誇らしく輝いていました。私もこの黄金のチームの立派なスタッフです。「万歳」と叫びたいような感激で一杯でした。

## めだかの学校伝言板

第19回めだかの学校を開校するので出席下さい。

開校日/平成10年3月6日(金)6:20PMより

- |     |                            |                    |
|-----|----------------------------|--------------------|
| 校長  | 古橋 利雄                      | 1時限目=水村春江・志穂 母と子先生 |
| 教頭  | 渡辺三ツ子                      | 職業「カエルの子は蛙?」       |
| 用務員 | 足立 陽詳                      | 2時限目=上嶋裕志先生        |
| 受付  | 鈴木知賀男                      | 社会「人間ネットワークのつくり方」  |
|     | 影山 絹代                      | 3時限目=佐野蓉子先生        |
|     | (補) 足立 陽詳                  | 家庭科「ものづくりの心」       |
| 給食係 | 水野忠義・森下幸子・落合啓二・村松達雄・富永セツ子  |                    |
|     | 鈴木真弓・湯浅明美・尾上美智子・匂坂玲子・渡辺三ツ子 |                    |
|     | チーフ 鈴木真弓 (助っ人 渡辺三ツ子)       |                    |

へ同じ釜の飯を食った仲間よりもへ同じ釜の飯を作った仲間。だすとつくづく思いました。たった数時間の間に、気心の知れた長い付き合いの知己にも優る仲間を沢山得ることができたからです。また、それまでは転校生の様な心境で隅っこで小さくなっていましたが給食当番のお陰で学校運営に参加している実感も得ることができました。

まだ給食当番を経験していない生徒さんは是非積極参加して素晴らしい体験をしてみてください。校長の私がお勤めするのだから絶対です。

また、給食当番は校長への登竜門の不可欠な要素です。なんてね。

# めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

## 第七回地域学フォーラム in 島田

元氣な町への処方箋 地方都市の元氣のモトを探す・創る・育てる「」が、1月21日(水)22日(木)の2日間、島田市民総合施設「プラザおおるり」で開催

記念公演では、石川嘉延県知事が「生活者優先の行政」を目指す、と。基調講演は、滋賀県彦根市長中島一氏が「歴史の息づく和風の街並み」と題して、自らが率先して進めた街づくりの体験を語った。

パネルディスカッション「元氣なまちへの処方箋」地方都市の元氣のモトとは「コーディネーターは地域学会代表幹事の小林義明さん、パネラーは中島彦根市長、富永照子浅草おかみさん会理事、加藤基道身延駅前しようにん通り商業協同組合理事、岩村越司島田市長。それぞれの町、町づくりについて話されたが、元氣印の富永おかみさんの「行政をあてにしてはダメ。自らもリスクをおうぐらいの気持ちでやらなければダメだ。これからは女性だ」となんと迫力のある、お言葉。行政マンの多い会場は、「マイッター!マイッター!」

それにしても、めだかの生徒は、どこでも泳ぎ回っているものだ。席をとって、服部守孝さんと昼食にいそい、戻ってみれば、隣の席に関京子さんご夫妻が。回りを見渡すと、見慣れた顔がアツコッチに。今回は、昨年

1月に方広寺で開かれたフォーラムと違って、夜なべの交流会も名簿も名札もないので寂しかったね。いつも交流会が目的だもの、ホント。22日の分科会には、めだかがうじょうじよ泳いでいたというが、私は欠席だったので加茂光廣さんにバトンタッチします。

(榊原幸雄生徒)

2日目の分科会の中では、参加者10人と最少だったが、かえって全員がボンボン発言して盛り上がった。中でもゲスト杉山バラ園社長の熱のこもった楽しい話は、ずいぶん参考になった。その中の一つ、以前は年間のイベントに200万円かけて外部の業者に委託していたが、それが今では経費ゼロ。その秘密は20代、40代の女性を中心としたボランティアパワーのおかげだとか。彼女たちに企画、宣伝、運営一切をお任せする。フリーマーケットも自由によつてもらう。収益は全部彼女たちのもの。バラ園としては、人がほとんど集まってくればそれでよい。しかも入園料はいただかない。しかし園内には、お金を落していってくれる楽しい仕掛けがあるそう。また、これからは、高齢者の活力をいかにして受け入れていくかを考えているとのこと。ともすれば硬直しやすい官の考え方に対して実践の民の考えも学べる地域学フォーラムのあり方は、素晴らしいものがある。昨年の引佐町フォーラムに続き、今回も収穫があり、参加して良かった。

(加茂光廣生徒)

## 静岡未来づくりネットワーク 交流会議に参加して

めだかの学校が加盟している「静岡未来づくりネットワーク」の今年の交流会議が、昨年11月末に川根を舞台に、「かわねは今

日もいやんばい!一過疎から過疎への問いかけ」をテーマとして開催され、メダカたちが泳ぎ回っていました。

1日目の趣旨説明の後、6つの分科会に分かれて議論がはじまり、寸又映「翠紅苑ホテル」での交流会、その後の同ホテルでの分科会パート2と夜遅くまで、各地から来た「風の人」と地元「土の人」が交流し議論しました。分科会のテーマは、「風の人」と地元「土の人」が交流し議論しました。分科会のテーマは、「①大井川にこだわってみよう」

「②過疎という名のユートピア」③地域産業の産業化戦略」④ニューリズムの舞台で何を演じられるのか」⑤よそ者、若者、バカ者、君は何者」⑥地域づくりの真髓、守破離」⑦では武井メダカがコーディネーターで山内メダカがサブリーダー、⑧でも北島メダカが大いに吠えたようです。③では榊原メダカ、⑤では鈴木メダカが大いに吠えたようです。その他のメダカたちも、各分科会で睡をとばしたようです。私は、②で地元川根の方々や下田から見えた楠山さんという元氣な方と出会うことができました。②分科会は、議論百出でまとめが難しかったようですが、「過疎は、行政が予算をぶんどるために作った言葉、住んでいる人は過疎とっていない」との発言が印象的でした。

2日目の分科会報告とパネルディスカッションは、パスしたので報告できません。それにしても、寸又映「翠紅苑ホテル」は素晴らしい宿でした。お金を貯めて遠足で行きましょう。⑨追伸)10年度静岡未来づくりネットワークに加盟している団体が62団体あり。幹事団体(10団体)に「サンクラブ」(天竜市)本島慎一郎(めだかの生徒)と「めだかの学校」

がなりました。アドバイザー幹事(5人)には、武井紀夫、花井孝がなっています。

(松本芳廣生徒)

## ■藤原めだか通信

11月27日(木)藤原夢倶楽部主催講演会「江戸の庶民生活と旅」科学者で江戸の研究者 作家 石川英輔氏 江戸時代は言われている程住みにくい社会ではなかった。完全なサイクル社会、ボランティアと言言葉がいらない社会であった等々...

11月29日(土)蒲原まちづくりフォーラム 谷根千の森まゆみさん、西村先生を講師にめだかの生徒も川根のシンポジウムの後、多数参加。

11月30日(日)地球村 高木善之氏 講演会 於富士川町

98 1月24日、2月2日

岐阜県蛭川村、博石館に記念館をもつ、はがき記念作家の中島月空さんと夫人のちえこさんの書画展開催。(天野恵美子生徒)

## ■湯布院からの手紙

ゆふいん親類クラブ出合いのフォーラム2/11 拝啓

雪におおわれた湯布院は、静かで美しい。1/22、23と降り続いた雪に久しぶりの雪化粧です。あなた様におかれましては、ご機嫌麗しくお過ごしのことと、お喜び申し上げます。さて、恒例のゆふいん親類クラブ出合いの

フォーラムを今年、寒さ真つ最中の2/11の建国記念日に行います。

親類クラブとは、湯布院流グリーンツリーズムのことです。

数年前までは、マスコミほか観光面でお世話になつていた方々をお招きあるいは出向いて感謝パーティを開いていましたが、「花を咲かすより根をふやせ」という湯布院観光の基本的スタンスに立ち戻つて、湯布院の魅力づくりをすることにしました。

湯布院は、様々な農産物とそれを加工する力を持った農村と保養温泉の複合でありたいとの考えから「農業も観光も商業も一緒にしよう」という運動を親類クラブとして起こしています。

農業と観光の関係で、常に話題になることは、町内農産物を旅館で積極的に使つてくれないだろうか、ということ。必要となるときに必要な量を種類を、との要求になかなか農家も応えられない、旅館の料理長に理解がないなど、といつていて農業と観光の結び付きが不十分です。これは30年も前から課題となつていて、少しの実績はあるものの広がりには欠けています。

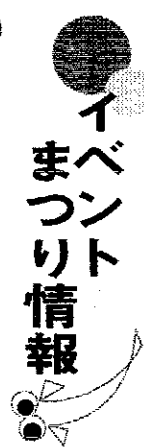
最近では農業、旅館の若手が後継者として徐々に表に出始めているので、ここは選手交替で、若者流にこの課題に取り組んでもらいたいものです。その仲人役に私どもの事務局がなればよいのです。この立ち上げは時期事務局長に譲ることとし、今はそのまっかつけづくりを2/11の親類クラブ「オフのゆふいん」：グリーンホリデイに賭けることにします。

当日は、町内の農家が持ち寄る食材を町内のプロの料理人が料理します。それを食べるのは町内の人々。農家と調理人の出会い、湯布院の農産物のうまさをおい飲んで確か

かめあう、これを500人鍋を囲んで行うのです。食後は、食の談話「農産物、何でも加工しませんか」「これからの湯布院料理への提案」という題目で町内の農産加工のプロと料理のプロがお話しをします。トリアは、料理の鉄人、道場六三郎さんのお話です。氏は、農業者の前でもならぬ、引き受けてくれました。人の出合いのコーディネートと情報発進が、私どもの腕の見せ所。当日は湯布院の農産物と人をテーマに親類クラブ新聞を配ります。

これには収穫カレンダー、ゆふいん野菜の直売所へ手に入るものを時期を追つて細かく紹介、がんばつている農家の紹介など、消費者として知りたい湯布院農業を情報紙にし、イベント後の農業と観光を繋ぐものとして考えています。どうぞ、オフの湯布院へ暖かな格好でお出掛けください。お待ちしております。寒さ厳しい折、くれぐれもお体大切に。お過ごしくださいませ。 敬具

由布院観光総合事務所 事務局長こと 溝口 久生徒



# イベント情報

## 引佐

人生「ピンピンコロリ」が誰もの願い。引佐赤十字病院では、3月8日(日)引佐町多目的研修センターで「日赤しあわせフォーラム」を開催する。メインは「元氣の出るシンポジウム」で、コーディネーターは見野孝子、パネラーには関京子はかきと馴染みの顔が揃つ。

90才の現役芸者のパネラーも話題のひとつ。アトラクションには、落語で楽しんでいただく。手づくりの昼食も用意、参加料は無料、乞うメダカ達のご参加を。

おなじみの「波川つづじまつり」、今年は5月17日から31日まで波川つづじ公園を中心に開かれる。今年には5年に1度の「五平餅サミット」が5月24日行われる。当日は三遠南信地域の市町村から二十数ヶ所の名物五平餅が店を連ねる。ぜひお越しの程を... (伊藤茂男生徒)

## 遠州横須賀

遠州に春を告げる 遠州横須賀 三鶴野神社大祭 4月3、4、5日

遠州の祭りは横須賀で始まり、森に終わる。桜の開花を合図に遠州横須賀にまた今年も祭りの季節がやってきます。今年の大祭は4月3日(金)～5日(日)江戸天下祭(神田、山王祭礼)の流れを汲むB台の祢里(ねり)が三社祭礼囃子の名調子にのつて古い城下の町並をねり歩き、祭の3日間、横須賀の町はいにしへの江戸天下絵巻を再現します。

「いにしへの お江戸の町の天下祭 今もいきづく」(横須賀に) (遠州 横須賀倶楽部 大番頭こと鈴木武志生徒)

## 春野

春 すみれ咲き 春を告げる 人なせ春をあこがれ待つ(すみれの葉の歌謡より) 第8回 はるのすみれ展

〔日時〕4月4日(土)午前10時から 午後4時 4月5日(日)午前9時から午後4時 <会場>春野ふれあい公園 ふれあい会館(春野町大居) <内容>すみれ展示、即売 草笛の加茂光廣、おし花の湯浅明美生徒 応援にかけつける。(尾上美智子生徒)

## 遠州森町

「魅惑のつらメンコ」 <主催>もりの感動ネットワーク 3月11日(水)森町文化会館小ホール 入場料2500円 問い合わせ 0538854233(ルモンド) 0538854037(村松達雄)

昨年に続いて、2回目の開催。本場スペインのカンテがホールいっぱいに響き、感動した会となりました。今回は、このとき演奏したエンリケ坂井さんをはじめ、3名のダンサーや若手新進気鋭のギタリストが来町します。小ホールを使い演奏者と一体となったアットホームな感じの演奏になると思います。(村松達雄生徒)

## 石松まつり

3月8日(日)3年に1度の大祭 女性清水一家28人衆参上 キャンペーンガールが道中合羽に三度笠の粋ないでたちで町中を歩く。 仮装行列 9時30分～11時55分 遠州森町市街地・大洞院 供養祭 12時00分 大洞院 問い合わせ 0538852111 (森町観光協会)

# トピックス

学舎の「地球めだか」が、氷が融けて暖かさを感じたのか、動き出している。1びき、2ひき、3びき・・・今年もたくさんめだかが誕生するようにお手伝いしなければ・・・と。産婦役のバラさんでした。「めだかの生徒」も負けずに大いに泳ぎ回ろう。

2月3日午後から学舎で12ひきのめだかの有志が「こんにゃくづくり」に挑戦しました。半分成功、半分失敗。

「歩いて健康、摘んで健康、用いて健康」～本来、人々は美しい四季と豊かな自然の中に取り入れてきました。

学舎である「つみくさ」を拠点に、野草研究会をつくらうと、めだかの学校の生徒である篠原準八、寺田正春、加茂光廣、青野綾子、瀧美登良男、榊原幸雄や一般の山野草の研究者、愛好家などで検討しています。取り敢えず、3月7日(土)に発会式をやる予定です。会費など細かいことは詰めてありませんが、ご希望の方は、榊原まで連絡ください。「日本山野草協会」を創るうなんて夢見ています。

## 新入生紹介

◆ 森 信勝 [浜松市]

このたび静岡出版局より「静岡県鉄道興亡史」を出版する。元遠州鉄道職員で、まるで機関車のように馬力は抜群、身体は動かし、口も動く。無理もない。遠鉄スポーツクラブ支配人だった。

汽車と松本清張のことならドンとおまかせ。ライフワークは松本清張研究、清張関係蔵書二千冊。

(静岡県鉄道軌道史研究所所長)

◆ 小林 佳弘 [磐田市]

遠州シテイ情報誌「ばんぶきん」を発行している。

博識、経験(?)豊富。SBSラジオで、各地の民話を放送している。今年からは中日新聞でも連載始める。自ら取材に飛び回る。それも隣に若い女性をのせて。時々奥様もつれていきます。

ある日、森町の会合へ出かけたなら、めだかが大勢泳いでいた。時代はめだかへ乗り遅れたら大変!と「俺も入れて」と飛び込んだきた珍しい「めだか」です。

(遠州シテイ情報誌「ばんぶきん出版」社長)

## メダカ春秋

著書「よみがえる二宮金次郎」・「サムシット」・21世紀を創る報徳思想」：いま全国各地で二宮尊徳が世直しの救世主としてとり上げられている。この様に国民が心の問題を真剣に考えようとしているとき、官界のエースとして君臨する大蔵省では、耳を覆いたくなるような事件が発覚、「飲んだ、食った、受け取った」など市民生活では考えられないことがよく常識の如く行われている。「世の中いたいどうなってるの」と嘆きたくなってしまう。

そんな中、1月26日付の新聞に「全国の首長が選んだ元氣な自治体」が公表された。いずれも全国的に知られた自治体であるが、その内容は生涯学習、観光、福祉、農林業、コミュニティなど、いずれも独創的で、しかも、住民参加型まちづくりが主流を占めている。

そして、それぞれの地域には首長をはじめすぐれた人材が存在している。目先のことに妥協せず、ときには大風呂敷と批判を受けかねないような、構想と信念をもって進進していく強力なリーダーシップが生きていている。

中央とか地方とかいう言葉はあまり好きではないが、中央といわれるところで人道的にそむくような行為が多発し、地方では心を論じ住民の幸福を求め活動が着実に進められている・・・変な世の中である。

変な世の中だからこそも、めだかの学校の存在が必要であろうと思う。個性豊かな二百余名のメダカ達こそ世直しの仕掛け人として活躍のときであろう。期待してやまない。

めだかの学校が地域社会や職場の為にあってはなくてはならない。メダカ達が地域社会をはじめ多くの人達へ良い影響を及ぼしてかなければならない。(いいたしゅ)

## 事務局より

■必ず手続きを!!

五期は9年9月1日から10年8月31日までです。

新入生、継続生ともに手続きが必要です。

在校生でまだ入校手続きをなされていない方は、至急手続きをとってください。同封の入校申込書に記入し入校金1000円を添えて申し込んでください。手続きのない方は、自動退学!!名簿からはずれる!!となりますので気をつけてください。

入校金を納入して、「めだかの学校生」となります。

■各地のたよりの掲載について  
各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、5月ですので、4月20日までに事務局へファックス、又は封書にてご送付ください。

めだかの学校事務局

〒431-203

静岡県引佐郡引佐町1-737-2000

いなさ自然休養村(つみくさ)

TEL・FAX

053-543-0321